

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもみらいアイビー		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月1日		～ 令和8年 2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36人	(回答者数) 34人
○従業者評価実施期間	令和8年 2月1日		～ 令和8年 2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	本事業所では、児童一人ひとりの特性や発達段階を踏まえた個別支援を行うとともに、保護者との情報共有を大切にしながら支援を行っている点が強みである。 また、職員間の情報共有や振り返りを通して支援の質向上に取り組んでおり、チームとして支援を行う体制が整っている。	・個別支援計画の作成にあたり、保護者からの聞き取りや日々の観察を通して児童の状況を把握している。 ・支援開始前後のミーティングを実施し、支援内容の共有や振り返りを行っている。	・職員研修の機会を継続的に確保し、専門性の向上を図る。 ・支援記録やモニタリング結果を活用し、より効果的な支援方法の検討を行う。
2	さらに、日々の支援記録やモニタリングを活用しながら支援内容の見直しを行い、継続的な支援改善に努めている。	・個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行い、児童の特性に応じた支援を提供している。	・保護者との情報共有の方法をさらに工夫し、支援の理解を深めてもらえるよう取り組む。
3		・連絡帳や送迎時のコミュニケーションを通して保護者との情報共有を行っている。 ・季節行事や外出活動等を取り入れ、活動内容が固定化しないよう工夫している。	・子どもの主体性を大切にした活動内容の充実を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会や関係機関との連携については、現状では十分とは言えない部分がある。 また、保護者同士の交流機会や家族支援の取り組みについても、今後充実を図る余地がある。	・利用児童の特性や安全面への配慮から、地域交流の機会を設ける機会が限られている。 ・保護者の就労状況等により、保護者会や交流機会の開催が難しい場合がある。	・地域との関わりについて、無理のない範囲で交流機会の検討を行う。 ・保護者のニーズを踏まえながら、情報提供や相談支援の機会を充実させる。
2		・関係機関との連携については必要に応じた対応が中心となっている。	・児童発達支援センターや相談支援事業所等との連携を強化し、支援体制の充実を図る。
3			・保護者同士の交流について、必要に応じて情報提供や交流機会の検討を行う。